

子どもの発達に合わせた安全教育・防災教育の開発



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 講師

植田 真理子 Ueda Mariko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード: 防災教育・安全教育・子どもの安全・カリキュラム開発・家庭科教育・住教育・保幼小連携・情報リテラシー

研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 11: 住み続けられるまちづくりを

(1) 安全教育 ～子どもの安全を守るために: 保育者・保護者・企業への展開～

保育中や子育ての場面で発生する事故は、大人が注意深く見守るだけでは十分に防ぐことが困難であり、傷害予防に関する具体的かつ実践的な知識を学ぶ機会の提供が不可欠です。本研究では、子どもの事故のデータベースを用いて誤飲・誤嚥事故を分析した結果、保育現場では死亡に至る食品関連事故が多く発生している一方で、家庭ではおもちゃや電池などの製品事故が多いことが明らかになりました。これらの知見を踏まえ、教員養成課程および保育者養成の現場において、実態に即した安全教育の充実に取り組んでいます。

(2) 防災教育 ～カリキュラム・教材開発: 家庭科を基盤とした防災教育と保幼小の連携～

本研究は、子どもの発達段階に応じた安全教育および防災教育を、学校教育における**家庭科**を基盤として体系的に構築することを目的としています。近年、自然災害や事故のリスクが高まる中、日常生活と密接に関連した防災教育の重要性は一層高まっています。家庭科は「衣・食・住・消費生活」を総合的に扱う教科であり、災害時に必要な知識や技能を実生活に即して学ぶことができる点で有効です。また、災害時には SNS 等で偽情報が拡散することもあるため、情報を適切に取捨選択する力（情報リテラシー）の育成も重要な課題です。さらに、幼児期から段階的に「**自分事**」として防災・減災を学び、保育所・幼稚園・小学校、さらには地域との連携を通じて広げていく教育モデルの構築を目指しています。

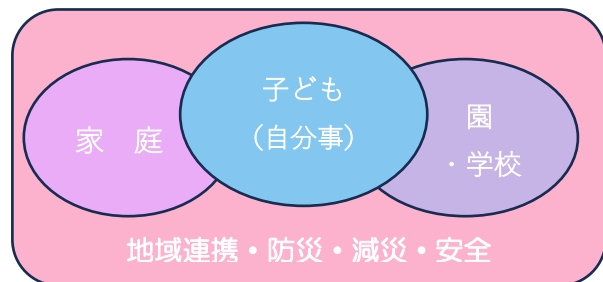


図: 家庭・園・学校・地域と連携した子どもの安全・防災の学びのイメージ

教育とすまい・まち 実践事例

防災教育 その3
～通学路を見直そう～

小学校、中学校、高校／家庭科、総合的な学習の時間



教育とすまい・まち 実践事例

防災教育 その5
～地域の歴史に学ぼう～

小学校、中学校、高校／社会科、家庭科、総合的な学習の時間



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・家庭や園、学校での安全な環境構成や、大人（保護者や保育者、教員）のチェックポイントを提案します。
- ・家庭ごとのニーズ（年齢、病気や障がい、嗜好など）に応じた防災対策や防災グッズの選定を提案します。
- ・情報リテラシー教育を通じて、災害時に必要な情報を取捨選択する力の育成をおこないます。
- ・保幼小連携を基盤に、地域の中学校や高校、保護者、地域住民と協同し、安全マップ作成や街歩き活動をおこない、社会全体で子どもの安全を守る取り組みを進めます。
- ・自治体や産業界と連携し、防災教育教材の開発、地域防災活動への参画をおこないます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】・「震災の記録を活用したこれからの防災教育の課題と可能性」

・「家庭科における家族・家庭生活と住まいの領域を融合した防災教育に関する研究」ほか

【所属学会】日本家庭科教育学会、こども環境学会、防災教育学会、日本セーフティプロモーション学会